

研究科の概要

理念

21世紀を迎えた現在、これまでの「知」のあり方は大きく変わろうとしており、人々の関心や研究目的は多様性をますます帯びつつあります。大阪市立大学文学研究科は、そうした流行する「知」に潜む不易の本質を見すえて、学問的「知」の組み替えに挑戦してきました。そして、以下の理念の下に、学部のコースを基礎とする3専攻14専修のほか、アジア都市文化学専攻を設置し、既存の学問の垣根を越えて、都市文化を複合的にとらえる新しい試みを行ってきました。

- 人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究します。
- 人間、社会、都市、文化をとりまく今日的課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざします。
- 先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざします。

人材育成の目標

<大学院前期博士課程>

- 人文科学や行動科学の分野において、先端的知识と方法を身につけ独創的研究をみずから行いうる人材を育成します。
- 地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に 대응する高度専門職業人を育成します。
- 生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を育成します。

<大学院後期博士課程>

- 人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者を育成します。
- 国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を育成します。

沿革

大阪市立大学大学院文学研究科は、1953（昭和28）年4月に、社会学・地理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の修士課程6専攻をもって発足しました。その1年後の1954（昭和29）年には、哲学・心理学・東洋史学・仏文学専攻が増設され、翌1955（昭和30）年4月には、哲学・社会学・心理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の7専攻の博士課程が設置されました。

その後、修士課程・博士課程において順次専攻が設置され、1971（昭和46）年4月に12専攻（哲学・社会学・心理学・教育学・国史学（のち日本史学）・東洋史学・地理学・国文学・中国語中国文学・英文学・独文学・仏文学）すべてにおいて修士課程、博士課程を擁する体制が整いました。

1974（昭和49）年6月の大学院設置基準の制定に伴い、1975（昭和50）年4月から、2年間の前期博士課程と3年間

の後期博士課程とに区分され、前期博士課程は修士課程として取り扱われることになりました。

以後、長らくこの体制で推移してきましたが、2002（平成13）年4月に大学院が部局化されると同時に、これまでの12専攻は、哲学歴史学・人間行動学・言語文化学の3専攻に再編され、各専攻の中に14の専門分野（専修）が置かれ、これに新しくアジア都市文化学専攻（大学院課程のみ）が設けられました。そして、いずれも前期博士課程と後期博士課程をもつ4専攻として編成されました。

そして、2010（平成22）年4月に、ドイツ語ドイツ文学専修とフランス語フランス文学専修が、ドイツ語フランス言語文化学専修に統合され、また言語情報学が言語応用学専修となり、現在に至ります。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

文学研究科は、人間、社会、文化、言語に関心を持つ人間性豊かな人材を育成することを目標としています。それに対応して、以下のような人材を求めます。

<大学院前期博士課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
- 社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人

<大学院後期博士課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な知識と独創的研究テーマを有する人
- 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を備えた人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<大学院前期博士課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培う。
- 人文科学・行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培う。

<大学院後期博士課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培う。
- 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培う。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

<大学院前期博士課程>

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで修士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

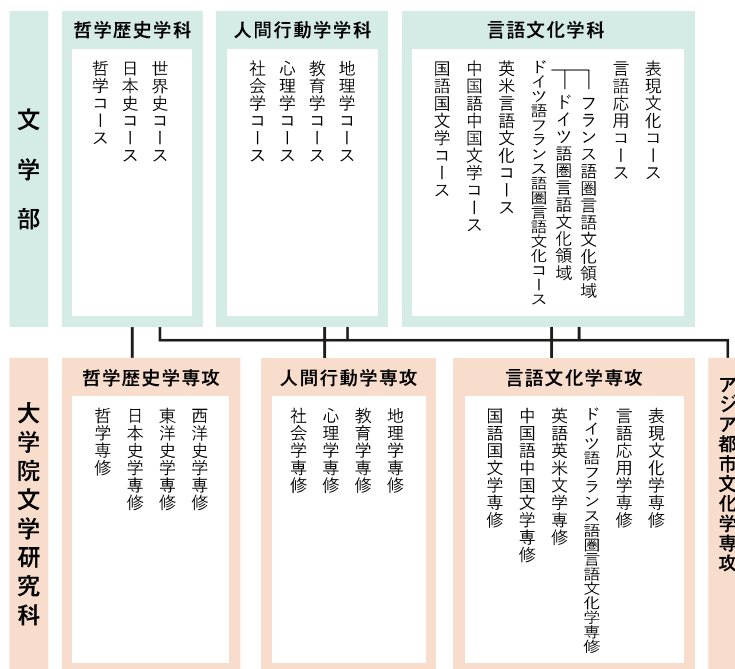
<大学院後期博士課程>

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで博士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

学部との接続

文学研究科の学部段階の教育研究組織として、文学部が位置づけられています。文学部は、「哲学歴史学科」「人間行動学科」「言語文化学科」の3学科、計13の履修コースからなっています。文学研究科との接続関係は、右図の通りです。

文学部の各コースとも、1学年、数名から十数名という徹底した少人数編成を採用しています。また、各コースが提供する多彩な科目の中から、学生たちは各自の関心に沿ってカリキュラムを組み立て、専門的もしくは学際的なテーマを探究していくことができます。こうした学修による成果をさらに発展させて活かすべく、文学研究科に進学する学生も少なくありません。



専攻・専修一覧と特色

専攻	特色	専修
哲学 歴史学 専攻	<p>人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とします。哲学と歴史学という、方法論は異なるものの、人間文化の基礎を研究する両分野を統合したところに特徴があります。人間理解のための二つの基本的な座標軸といてよい哲学的観点と歴史学的観点を統合した教育研究体制は、激しく変動する時代潮流の中で、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを可能にします。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 哲学専修 • 日本史学専修 • 東洋史学専修 • 西洋史学専修
人間 行動学 専攻	<p>人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代都市の社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えるような教育研究を行なうものです。その際に、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく人間行動や社会現象の分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会やその中で生活する人間を客観的に観察する目を養い、大学、研究所等の研究職のみならず、教育、福祉、情報産業、官公庁における高度な専門的知識と技術をもった専門家として活躍できる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、社会学、心理学、教育学、地理学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 社会学専修 • 心理学専修 • 教育学専修 • 地理学専修
言語 文化学 専攻	<p>人間の営みの中核をなす言語にかかわる文化現象の全領域、すなわち、言語、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することをめざします。従来の国家単位・言語単位の専門分野区分に基づくほか、現代の地域横断的な文化状況に対応する新しい専門領域として、言語応用学、表現文化学分野を増強し、これによって、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現します。さらに西洋古典学、言語学などの分野を、専攻の共通の基礎的知識および周辺領域への広い視野を養うものとして、ここに含めることによって、各専門分野の相互関連性を重視した総合的な言語文化学の確立を目標とします。また、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、国際社会において活躍しうる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語フランス語圏言語文化学、言語応用学、表現文化学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国語国文学専修 • 中国語中国文学専修 • 英語英米文学専修 • ドイツ語フランス語圏言語文化学専修 • 言語応用学専修 • 表現文化学専修
アジア 都市文化学 専攻	<p>これまでアジアに関する研究は、経済学・政治学の分野に偏りがありました。それらに比べて本専攻は、東アジア・東南アジアを中心とするアジアの文化、とりわけ都市文化の現状と特性、その形成、さらに今後の可能性について、人文諸科学の成果を基礎に、学際的、総合的、比較文化的に考究することを目的としています。アジア諸都市の文化研究を軸とした日本ではじめての専攻コースです。教員の専門分野も、伝統文化論、文化人類学、文化資源学、ポピュラー文化研究、国際日本研究、観光学など多岐にわたり、既存の学問の垣根を越えて、ひろくアジアを横断し複合的にとらえる視点を養うことができます。また留学生や社会人にも門戸を開放します。語学指導、フィールドワーク指導などにも力を入れ、これまでの大学院に欠けていた「情報交流型」の教育研究を行ないます。</p>	

研究科組織

専攻	専門分野（専修）	教授	准教授	講師
哲学 歴史学 専攻	哲学	仲原 孝 高梨 友宏	土屋 貴志	佐金 武
	日本史学	塚田 孝 仁木 宏 岸本 直文 佐賀 朝	磐下 徹	
	東洋史学	平田 茂樹 (井上 徹(理事兼副学長))	野村 親義 上野 雅由樹	
	西洋史学	大黒 俊二 北村 昌史	草生 久嗣	
人間 行動学 専攻	社会学	進藤 雄三 石田 佐恵子 伊地知 紀子 川野 英二		笹島 秀晃
	心理学	池上 知子(副学長) 山 祐嗣	川邊 光一 佐伯 大輔	
	教育学	柏木 敦	添田 晴雄 森 久佳 島田 希	
	地理学	大場 茂明 山崎 孝史 水内 俊雄(都市研究プラザ教授兼任) 祖田 亮次	木村 義成	
言語 文化学 専攻	国語国文学	丹羽 哲也 小林 直樹 久堀 裕朗	奥野 久美子	山本 真由子
	中国語中国文学	松浦 恆雄 岩本 真理 張 新民	大岩本 幸次	
	英語英米文学	杉井 正史 田中 孝信	RICHARDS, Ian 古賀 哲男 豊田 純一	
	ドイツ語フランス語圏 言語文化学	神竹 道士 福島 祥行	高井 絹子 白田 由樹 原野 葉子	長谷川 健一
	言語応用学	関 茂樹 井狩 幸男 山崎 雅人 田中 一彦		
	表現文化学	三上 雅子 小田中 章浩 野末 紀之	高島 葉子 海老根 剛	
アジア 文化学 専攻		野崎 充彦 多和田 裕司 菅原 真弓	増田 聡 天野 景太 堀 まどか	

研究支援体制

1. 文学研究科インターナショナルスクール (International School)

文学研究科では、グローバル化する研究環境に適応し、研究成果を国際的に発信できる若手研究者を体系的に育成するため、多数のプログラムを実施しています。

(1) インターナショナルスクール集中科目

文学研究科がカバーする研究分野について、学外から招いた講師が英語で講義します。また、講義内容について、受講者を交えて英語でディスカッションを行います。集中講義として開講され、前期博士課程の大学院生は、単位を取得することができます。

(2) アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ

英語による研究発表の基礎的スキルを習得することを目的とした授業です。アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ（前期）では、プレゼンテーションスキルを、アカデミック・コミュニケーション演習Ⅱ（後期）では、ライティングスキルを習得します。前期博士課程の大学院生は、単位を取得することができます。

(3) トレーニング・プログラム

大学院生や UCRC 研究員を対象としたプログラムです。文学研究科の教員と外部語学学校のスタッフを講師として、英語による研究発表（プレゼンテーションソフトを用いた口頭発表形式）の実践的スキルを養成します。5月～9月の期間に週1～2回のペースで実施します。トレーニング・プログラム受講者は、インターナショナルスクールセミナーでの発表者や、アメリカ・イリノイ大学との合同シンポジウムの発表者として推薦されることがあります。

(4) インターナショナルスクール研究交流セミナー

アメリカのイリノイ大学やタイのチュラロンコン大学などから招聘した研究者と若手研究者・文学研究科教員による研究発表会です。トレーニング・プログラムでの訓練の成果を発表する場でもあります。1年に3件程度実施します。

(5) インターナショナルスクール日常化プログラム

文学研究科の各専修が主催して、海外から招聘した研究者の講演を随時実施しています。誰でも参加でき、国際的な研究に日常的に触れる機会を提供しています。

(6) ライティングセミナー実践編

学外から講師を招聘し、英語による実践的な論文執筆法を学びます。

(7) インターナショナルスクール海外渡航支援

海外での学会発表や調査に対して金銭的補助を行います。

(8) 外国語論文の校閲・翻訳補助

外国語で執筆の論文の校閲や翻訳などの費用を補助します。日本語を母語としない方には、日本語で執筆の論文も補助の対象です。毎年、10件前後の申請に対して論文校閲の補助をします。

問い合わせ先 | 学生サポートセンター1Fの文学研究科担当窓口までどうぞ

TEL : 06-6605-2353 Mail : lit2010@lit.osaka-cu.ac.jp

2. 都市文化研究センター (Urban-Culture Research Center; UCRC)

文学研究科・都市文化研究センターでは、毎年数十名のポストドクター・オーバードクターや後期博士課程大学院生などの若手研究者を「UCRC 研究員」として採用し、文学研究科教員の指導のもと、都市・文化に関する研究を推進しています。UCRC 研究員に採用されると、学術情報総合センター（図書館）が利用でき、「文学研究科プロジェクト」への参加資格も得られるほか、UCRC で発行している学術雑誌『都市文化研究』や英文オープンアクセスジャーナル『UrbanScope』への投稿が可能となります。UCRC に関する詳しい情報は、以下の Web サイトで公開しています。

▶ <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/>

■ 頭脳循環プログラム

文学研究科では、日本学術振興会の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に応募し、これまでに、「東アジア都市の歴史的形成と文化創造力」（2011～2013年度）と「EU域内外におけるトランスローカルな都市ネットワークに基づく合同生活圏の再構築」（2012～2014年度）が採択されています。このプログラムにより、文学研究科大学院生や UCRC 研究員が、中国、韓国、台湾、ドイツ、イタリア、フランスに長期間渡航し、研究実績を積むとともに、研究機関に就職するなどの成果を上げています。

3. 大学院生への経済的支援制度

大学院生への経済的支援制度としては、授業料減免と奨学金があります。

■ 授業料減免

本人の経済的状況などに応じ、授業料の減免を受けることができます。

授業料減免には、全額免除の他に、半額免除という制度もあります。毎年、申請者数の半分程度が、全額免除ないし半額免除を受けています。また一括納入ではなく、授業料の分納を認められるケースもよくあります。

■ 奨学金

奨学金としてもっともメジャーなのは、日本学生支援機構のもので、日本学生支援機構大学院奨学生の定期採用においては、第1種：無利息と、第2種：利息付きの2種類があります。

このうち第1種にはかなりの確率で採用されています。第2種については申請者のほぼ全員が採用されています。特に、後期博士課程については、第1種申請者のほぼ全員が採用されました。（以上は、あくまでこれまでの実績です。今後、変化する可能性が全くないわけではありません）。

この他に、大阪市立大学には、いくつかの公的機関や多くの財団、海外の機関などから提供される奨学金の制度が用意されています。特に、留学生のための奨学金は豊富な種類がありますので、入学後、国際センターで確かめ、積極的に応募してみてください。

なお、奨学金制度に限らず、外国人留学生の方々のための諸制度・諸組織については、以下のHPに詳しいので、留学生のみなさんは参照してください。

▶ <http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/international/student>

■ 長期履修学生制度 — 社会人院生のために

社会人などとして働きながら大学院生として研究し、修士論文、博士論文を執筆することは簡単なことではありません。そうした勉学意欲の強い方々をサポートするため、長期履修学生制度を設けています。

前期博士課程（本来2年間）の場合は、3年から4年をかけて課程を履修することができます。後期博士課程（本来3年間）では、4年から6年で課程を修了することができます。

余裕をもって研究に取り組み、じっくりと論文を仕上げることを保障するのが、この長期履修学生制度です。

この制度を利用するためには、職業を有すること、育児・介護などに従事していること、その他の条件があります。

大学院入学の直前（4月に入学する直前の3月）に研究科に対して制度の適用を申請する必要があります。また、制度の適用・使い方などに不安があるようであれば、受験前に、各専攻・専修の教員や学生サポートセンター文学研究科教務担当者とはよく相談しておいてください。

私たちは、働きながら学ぼうとする大学院生を歓迎します。